

か。段差で大きな音がでるような場所も測定しているか。

A 国道41号と県道を調査している。イレギュラーな場所での調査は行っていない。

Q ごみ減量化推進事業について、平成27年度に比べてどれくらい量が減少したのか。

A 6万1千キログラム減少した。約8%の減少。

Q 下水道に対する今後の負担について。

A 下水道事業は、下水道債に関する元利償還金が交付税算入される。当面繰出金が急増する事はないと見ている。

Q 漏水などによる無収水量は下げられないのか。

A 使用量の少ない深夜に漏水調査を行い修繕している。地道に漏水調査を進める。

農 林 部

Q 広葉樹のまちづくりの推進について、小径木広葉樹特性試験事業で予算約400万円に対して決算30万円と不要額が多いのはなぜか。

A 当初の見積りでは、民間事業者で見積りをしていたが岐阜県生活技術研究所に切り替えたこと、必要な試験項目の精査を行い減となった。

Q 5年に一度の全国和牛能力共進会が開催されたが、今後の飛騨市の取り組みは。

A 今回の目標は最優秀枝肉賞獲得であったが残念ながらなかった。受賞した九州の繁殖雌牛は20万〜30万頭で岐阜県は8千頭しかない。その中で立ち向かう事は大変難しいが、底上げして県と連携して進めていく。

市民福祉部

Q いきいき健康増進事業は今年度利用者は増えたか。

A 対象が65歳から70歳になったが利用は5割増えた。

Q 児童精神科の見通しは。

A 今秋から週1回の開設、来年度からはフル稼働する。県内の関係機関と連携しながら運用したい。

Q 出会い・結婚事業の登録者少ないが。

A 市結婚相談利用者に登録を勧めている。年度当初からは増加した。

Q 和光園の借地契約はどのようなものか。

A 地権者希望で30年契約とし、その時点で見直す。

Q 介護支援手当の増額は検討していないか。

A 平成26年度までは介護保険特別会計で実施していたが、改正で保険外となり一財で継続した。金額については他自治体も参考に検討したい。

Q 介護者の集いはあるか。

A 年8回、介護技術研修や話し合いを行っている。

Q 障がい者就労の現状は。

A 市内のサービスは少ないが、雇用については前向きな事業所が増えている。

基盤整備部

Q 地域振興費。現在1億円で、今後も継続していくのか。

A 地域振興費は続けていきたい。少し増やす事も議論している。地区の要望に、より柔軟に対応できる。

Q 道の駅について、ハード面とソフト面があるが、連携はしっかりとれているか。

A 道の駅は3箇所あり、それぞれ対応が異なる。企画部と基盤整備部は連絡を密にとっている。アルプ飛騨古川はトイレ改修について国交省と相談している。

教育委員会事務局

Q 給食の異物混入や食べ残しはないか。

A 報告は受けていない。

Q 育英奨学金は希望者全員が借りられたか。

A 全員該当した。返済も年内に納入されている。

Q 夏休み中の部活時スクールバスの利用要望はないか。

A 新年度にむけ、学校と検討する。

Q 文化施設や体育施設でコンベンション利用あったか。

A 文化交流センターで1件あり、宿泊にもつながった。

Q 観光課と連携し進める。

Q 部活動補助金の範囲を広げ、保護者からの反応は。

A 負担軽減で、ありがたいという声が多い。

Q 小学校から英語教育が始まるが対応は。

A 現在はALT3名が対応している。平成30年度からの導入につき文科省のプログラムをみて考える。

病院管理室

Q トーマツによる経営改善でよくなった点は。

A 地域包括ケア病床8床を取得したこと。3カ月で500万円の収益があった。

Q 未収金への対応は。

A 連絡をとり、毎月納入されるよう努力している。

編集後記

実りの秋、芸術の秋、スポーツの秋を迎え飛騨市内各所でイベントが目白押し。イベントと言えば9月8〜10日に仙台市で開催された全国和牛能力共進会を視察。飛騨市からは2頭が出場したが、今回は九州勢が各部門で強かった。飛騨牛は銘柄化されてから約30年、今日最高級黒毛和牛の一つとなっており、これは関係者の並々ならぬ努力の賜物だと感じる。ブームに乗ってアピールすることも大切だが、本質を捉え、根付かせ成長させるには、時間をかけ官民一体となって努力し続けることが必要である。

視察最終日に東日本大震災の震災遺構「旧荒浜小学校」を視察。2階の廊下まで津波が押し寄せ、地区で約2百人の方が犠牲になった。自分の地域をよく知り、防災だけでなく個人ができる減災を広く呼び掛けていきたい。イベントなどで議員の顔を見掛けたら、どうぞ気軽に声をおかけ下さい。

(澤 史朗)